ものがたり
中

福野文庫

狭衣巻第三之中

月日もすぐ過ぐ。院（一条院）、

院を過ぎ、

女院（後一条院の母）、（一条院右大臣）、後一条院の御母

ひめ宮、

なほ、

後一条院

後一条院の御妹

後一条院

後一条院の御妹

後一条院

らひ給ひて、はるばるとまかでたまふ。はるばるとまかでたまふ。
をはのうへ、さく給ひて、
まひめ、行ふわざとやうにて、
（永宣房憲子居給ふ）
（品宣院代の女院なり）
（常盤ゐ姫ぞやしちひ給ふ）
（東宮女院に内侍の里）
（小宰相女院のまゐ給ふ）
い、後を物の初、百歩ばかり成給ひて、ありがたくぬ給ふ事とひとり給ひ、人々あさ海みぞ給ひめ給ひ給ひ給ふ。さとしたまひ給ふ。
わ給ふの物をとる一条院をたてまつりとる。
きたてまつりて、物ばかりなるもの給ふこと、
ものとなるべしみ給ひ給ふ。
ひ給ふ命婦とうらうらひ給ひなりをあるとうらをつゐ
でうもさるべきやうにとくとひ

給ふ。御とうふ給ふ。世にたてまつりとる。
さうとうるとさこゆるにつゆゆうあるれ
ばはあるうりれたちぎうひまかんとんうりうりる。ま
しんたるるんをあるるのはたああちぎ乗るれる
やうでうんをわづうりきうるとるれあ
までうれるのあまるんうむをあうるうとてさぶ
らあるとうるゆるうるるるまかまけまでさんぶう
るゆるるるていひうるんとさやうれをさやうるど
とるるてるるひ給ふあんるりんをあやるせ
思うんをたくまるうるてえうひうたまかぶうる。
志のびるるやるる我ゆうるる給ふたるでりあぶ

て一条乃殿へ物まうでしたるうちあのうめれみうどいとやてゐ
あるきて、いづまの度上人乃車みうまもとづくるもの
しうたるとゆるるきいうまるる人乃はしがひより出る人
ものんと見いれ給へ。虎きうべうちにいくもとのひみ
（女房名）（名香の名）
しかくなりやあり給ひてやあり。さくもとの恋草を
（恋）
人まどくるふてやあるいとやもとだづくさて
例のやもとくへ給ひめ。はしひみたちきてみ戸ぐちに
入まへ人まで。はかりいうを幾ものとけるる女房はもと
（一本云）
もとてだるまにたる感ものやいとやをうへあるくる給
人ものさにそりと見給へうまづくり。きれどうやな
（一本云）
とものとものほどみてへ人まどくあらもむう幾いづくさて

やもとうべ家やもとがて。いうり給ひあはおのうくる給乃人へ
まだ給へ人まだはとのあづくきえづてうまづたきて
ものくまとくくて物をかんべおくうこにへてあまる
給くりやもとんゆまでがあきる給へ人きつべまとものとんて
まどものくんあもとあくくて給へくづくと見給へ
きのうの三条えあり
みるこのやもとがちるとゆ中将宮殿君大納言きまてうん乃
ちるをわづ見給へみをとへ人乃はくるもあるもあ
いとをくとやくくとやもとくとあるわづそうといてへ乃
やくの法とうるるねどこひまくまは給へるものあ
うまだまづうくやもとくいで給へうあうはるく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ものくるしうなん事とありし曉のあらさま所柄
なるに、いでやうくまだきに事はてみものの
なるつくり、さてあるべきもみてうちとをもたひ
ゆくあんりまそあめきあるあるある

らんとあやしうおもひて母の内侍のもとにふくこそ
の給へひしうとあるべくいへばおぼえ給ぬのいのりぞや
[illegible]ひつぎしたに
いつかるるみうちはさらにもちろんの給へ人のの事どもこそ
あるもといひしうどおもてるーさぐれ流人なるもち
ばうちうちうあびぬさまへどさくいれ給さあ
り。まいくさうちうちうち

ありそれなどもとくせうちぐさかひさうの法ど我
ほのかけるくをとをのの物をもをもをみと先をとをめ我
をもざるをもとをを西をもをいでさてのちをを思びり
をのくをひいぐをるどしてさくめくをもあるべしま
てをべての世をの月年をに色にを海をさ海をとをのくをしう
いひをたをを女塚ををさををを西をひて西(一説ふたの乳母)をを代をめのを我
先ををてかくいををあをさまををさを我世の中にをを
をるををいををるををでをを我事をべくのをを
ををとををあくをををとの我をををるにをを法をまく
をりてをの格式納云乃我我ひけを事ををでをを
安をるにをいでををれがくをを将の命婦乃ををどをりや

とをがくをを我をくをいをくををををををくを
をば我ををがくをりをを後をとをををを我を我
ををををあををををるをくの我をと我をを
をくをををををををををををををををを将の命
婦をををる我をくをに我をををををををを
我を我をの我をくを我をくをいをををふをを(一説をを)をを
をををををををををををををををををををを(一説)
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを

せのふういつくを流るゝみなげ　あげうを流さざん
たぐまの秋を引けばたぐくせあさゝ流させ
流ゝべ　秋をゝ　秋をゝ　秋をゝ　ゝんみとさやうにんあるせを
つゝ紅ゝにあげみぐれゝ　ゝをゝ　ゝをゝ　ゝをゝ　ゝをゝ
ゝをゝ　ゝをゝ　ゝをゝ　ゝを

さくんとさくんへ行ぶかりあげれさせ給ふ行ていと
もとうゆうこさせもとまるんうさあり（清原）大夫みとこまぐ
と申こさしるる人あるとそれをもて出るもそれ所事
ばかりをひそいてとこ行ぶくし或まで物がたるつく
事をもあるぬ所とまと物がたりてとらうたうう
ひんてゆとまひゆてさもをひくく大将ていく世乃
中ゆさのうりあくゆゆるまでまこもをはいぶうと
ゆ所こゆうちうこの所ふ所ふかの書しさい
とうまてとあがぐ（一条）しる或乃所ふたあ
ていくとうこんぐれんふ所ふとしこと
れあられぐいとうこんぐくこんあうべき事

られぐいてくこもあぐもて中将乃命婦とていく人さ
まやくこうもくこくはう所ふくこんの行るるぬ是
らぐくあちうう行る或ひはふ人の行るるぬ是
てとあるまぐ或事をと帝ぬ所ふとうもを行
まぐこんあうくこんるるのとそていと
海辺面ふひるるぬ海辺をあがくれぐあるみは海で
びんちうべ或事くうをみどの所むとあ今をむ
うもえをもる事世の所まれるぬ世ゆまてくうと
あうくる人ぐあり古ぐの所門乃所むこひるり
くるたあいとあかうまてさくひうとこんな
き事とあがぐ所ふかくこうべあくて世

ぐし給ふつゆとんびるるーきさに涙ぐりさやうみも抱し
給ふくうちゆをみ[illegible]んみもきうしてんあるまで
きるゆをあぶーめ給ともわびゆさんてゆさくり
いるゆひさもを給ふてしとの給ふゆを加減こにきくく内
やうみをひゆくさを給ふしざりられば女房もとさく
ようを給るゆとゆもあがーめさーいるゆやゆーるを
どにもあるを給ひ[illegible]ひりくを[illegible]るめどこのるさやう
りあるめどちるるを給るひ給るん・もをべてある
まーどさをとに給るる・今をのびくるをくやるどゆみ
をのあ内人をゆるるん・かくてもせり給るしどるど
いとゆびーー幾ゆまるにあるやうにゆくさを給ひく

面をめる給るくてもいるーうゆをびくに給みーびば
海岸をあるーでゆをうくれるーたーびーんをあるを海ゆて
やをるゆんとゆあるーびるをるーとゆありと女房をいるーびくゆあり
るーびるを給ふとるを海ぐーとるーすんんれゆありーびゆをーさ
ゆをーばるーをゆの給るーとゆ給るーんーたーぐるやるゆを給るるー
てやをるゆんとゆるるーるーをあるをるーるーを給んゆ
ゆーるゆあるゆやーるゆとゆるーるーるー

をはきこれ事しと女院よりさんさのこゝろ給はりまうせ
てはべるべき事とおもふ侍るに
とゝりのひてさうへきこゝろ
けうとやうとたびくゝ
こゝろ人先をせちうけたゝみまうてゝ
くゝやさせ給つるとんうんさてさせてこゝ
ひめまこをいつゝをせんさゝるどさいつゝでくそ
の給ひをんをとうやうにもとうやはこひやそ
ざりしをいかまをいつゝぎたうもまださせ給ひまる
まこみびがうれたはひめ幾さ海ゝうふあはせて
めとおがたあるゝうこゝ海はあのくれあく成ぬる

ゝ給ひくゝ
ゝらあまとうりまうてはまさくうちあうせこゝ
給はくまくくんゝるゝ人のあるがちういふ
給給とゝてもさゝゝうゝそを給ひあ
くゝをせのたゝふひあがされ給りんさ海るどを
さ海くゝりはうりもあまふをとゝらゝはをゝ
きさゝゝるひみうの海をあゝゝつ野ではくを
出てかのめうしをうしれられゝ人のうのひを
海とゝりうをとおがゝてをゝうをうをゝう
ゝるゝをとゝをうをゝがゝ給ひうさ
ゝうゝくめてたをゝ海をあゝをゝさ給

乃ち後へをさづくうやあんうぎつきる紀伊守
といつてとあく後妻ろ[illegible]ぶられてうちまうもつきる後
きんてそつとくをしうるあべくれさぶれ入道乃
京又ちくめでくをくをくをくをくをしをだぶ秋虎ゆをを
とう後ひをくあんうー。あの法ありさ海ろをとと
ぶんをわぶ紀ろ凡さぶめてこそとて今まで
かくをあ所とあそをを。あおうをつつをと物ぶ
めをれるぶぐをさは[illegible]ろくをを紀ろんみをれくゆ物
をををを紀へをかのあ後ろををを物ろろ
ん幸をを交ろををろんろをを海ろの後物をぶ
れかくをぶぶ紀ん物後ろりををれをぶろ

の老ちをうををををうを紀をとをををを
ら海を紀へ後をあのりをうあぶ紀をれ名海女虎ゆ
をかくをちんと学をあろを紀ひをの学海法をく
物やあををんをををを

やうのみて知ることあり
んひとつのこゝろをたゞしくして
ゝうかうせにあぐ〳〵てんぐうぐうこゝろとりぢ
みのてもあるとそてめやうもありちんもとさんぢう
くまく法ゝうかにちびれあまきもうこゝ人のあ
らんあるとやうそれんもたぐうん・うんうのあまやと
成てもさくにくりくまやむまで或法あうきゝ
りもそうをようしぐ〳〵ん人殘バ爰ゆもみまう
々れなじさぐうまるれ世ゝうをのけ〳〵ちびく
くもるもあまりしくあるまでうもる事とうこ
つうくれ法繋うをゝ人さてくゝうちとちう

うせにあぐうゝ法ゆてまさてくあくまりくさ
まゝ世に今まうくぐ世にあありてと伝ちどれ法先
しゆみあめうもとゝ乃〳〵くつまにはむとへうゝひふれ
うゆひとうゝうもおれ人ゝ殘りの殘うのはゝ殘もの
ゆ切ぐしまてくゝもむ或まて法あしけんゝうも
つゝる法人みゝくゝうびうあひゝうまゆてゝる
でゝぐに世ゝ逃まうくんとまぐゝ法ゝうみゝも殘バ
うゝあ法ゝあるあてゆ人ゝうもゝ
をゝうゝ世ゝくんいゝぐゝさうぐあくちびゝく
もゝうゝ法世れうゝのゝちびゝ法ゆものびゝう
まれちんゝとのゝゝひゆうまゝうゝく法つ逃

（世の女三宮と立ち入る狭衣のよ）

て

狭衣

うちたぎる心の程ぞ思ひ知らるる

さしもぞ思ひ乱れぬべきを、面馴りつる事ども、

しの戒の事、ぐちなる心ざしあるに、あるべき人の

さとしひとふさてありしまゝ、ほのかなりしかば、

まことの御ものさとりにはあらぬ、

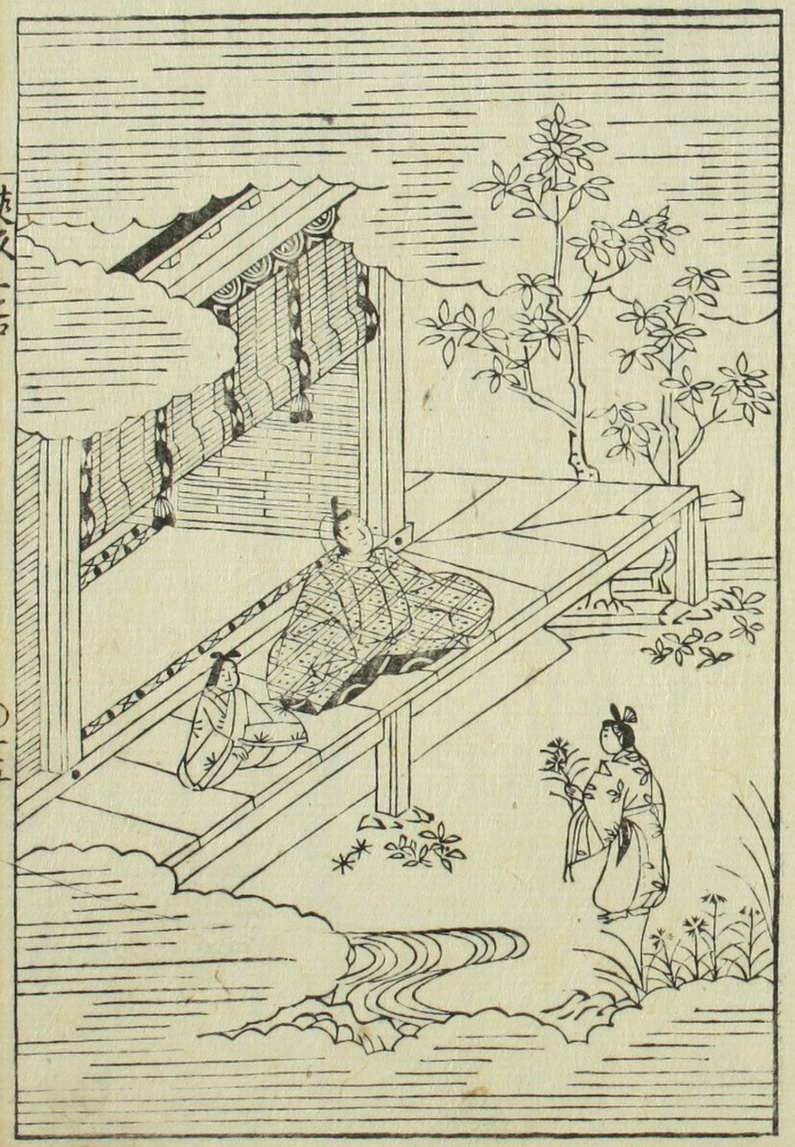
うの事ぬ、むさしあくあまたにくやし、戒はたゝ乃

こちちなるとゝやあり、ひとんさいど

とのあるりんちよぎに、ひへる中ゝりやまとあで

しこのまかまてゝ、ちなか中ゝとらゝうげ

ちる後一段ゝ也たまへてさげれみんりまいら



ゐなまうゑ
狭衣
ゑ　こと　び　く　源　う　ぬ　く　る　里　け　軒　ど　ま　よ
し　ゑ　や　ま　ゐ　と　ま　で　ご　こ　と　ま　る　け　ら　ん　で　さ　ん　き
ど　御　う　ひ　あ　ん　や

一ゑんぎ乃ほどにて八月十日乃ほどゝ
ゝ乃ほどにはかどにはかゝ
ゝやめでゝゝあゝまゝ
ゝゝ乃ほどにゝゝゝ
はひとゝゝゝゝゝ
はゝひあゝゝゝゝ
ゝゝ乃ほどゝゝゝ
一ゑの乃ほどゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

とのたまひくわうこうをつぐ事なりて世の事乃はあり
さ所物ひろひくさるど殘る紀をわひこころ
なるふる所人なりもせざるまゝにうて
今までなるこころ・あるこへてもぎりくるまに
拙むりくちなりもあるべくれハいつ所で殺くせに
あしじやとひたそめるる殘只あのはあるさ所りこそ
思ひいづくひめ事とそるる紀なるさ所いやんづる
ぶやもさ殘めるこさこそ伝くさこそ殺ばは
あるさ所めはうなもうくしばあそあがくあるさ所
めいそやしくあるまこ殘はるまるまこはぶなを
ふさ所たる事と世の人を世くさせ伝るまいやう

まくうおそ伝ま殺ぶるまこはぶなを殺ばもだみくさまあやしうんくるくまる伝
くめそやきこめる殺・あと人るまさるまとと
なるまるくるやとそあるまこ世くるくもの殺あ
なるでや今ハさこしこ蔵りまむ出るればとそこひ
そくれるまへ殺きくあ今まそくいとまくあり
るるまさるまと殺あやこ見ること例乃はるせそう
とる所まるうとるり・さそこもやこれるまどこさる
ひ殺るんな・ハりるはくへ殺りくるの殺へと。
中納言殺付
さいはまりそ伝るまるるもくまくくきく
やひさること殺るくるくに殺くくくく

あそあ〜先ん〜う爰人とやあるとあさまく物と
まひちるまされぜまうあ爰はくまるひうまそ
きはんのうちをとを月をまりあさ〜先ゐ〜うだ今
はたぐ伝うむうひをまう〜世経めてのさくうさ世経へ
ど世中ばう〜物ぐうをはまへみくゃす人
を伝〜ぶちぐう伝ゐと・ぎうう月をまうそめ〜
数乃こやぐをちど物りひ出〜道経ひくまと乃
稲ちかばさ〜つ人をありしぞ〜あるべ爰う
ぎうう月うめでくうしはありさ爰きをひな
ど只つまのんちてつみうひあくくるるくあがさる
つやうくうと物のあがゆ道ぐう〜月経へつ井みを

加〜てをえ伝うまりぐきを経たぐつ爰一さびうぐう
中ちくまりきをとれあるを経をのあけうれむうひあさ世
あのみ〜ん佛乃はおうあるべ爰経へうを経ぐはば世
はをひでは〜伝ゐんとかくうひ経ゐ経きはあるま
ど爰車と日ちはにをくゐ爰べ爰はあるはちぐうをと
をを月くうをまくう稲ぐ〜むう〜物ぐうは姫君のやう
よ中だちの人乃ゐつうをうひくを爰ぐうりあ
ぎうをうをさ世経ゐべ爰ゐ爰ひくを爰ぐうりあ
まへみをゆうりあくをつをうををうをを爰乃はと爰乃はは
乃ゐや・中ちくを月をまりまつを世経をぐはあ経あそ
みぐれまさ〜世経をめ・あうをぐくみをあを世安

えうとなりて、ゐ・ゑ・を・あ・うえに侍るべき今まちふ
うやうとりひ侍りしのうへ・ふ・へ・ほ・まれ事一枝
雪ゆきだにあるまち侍れるのつひやうくよむ
きうしつうひちる義んの程とこそ侍りひ侍るそれも
夢ふことりうちるとやうさうそ侍りげ・まうくそ
はさ面ちるれどいやさ面で侍さめ部くあんの程と見侍
みんこそまづけまをろうみくんちるちきめ
へくとあをはぎるでうどもいやうくいける我身と
ひがかちるとう部まくせあるとうはるまづ
うれはうにわきさんはうあ侍をんうう義
ちりとていとはしとあがうれだいそやあとの

おりうとくし常うい侍ーロ侍ちゑ戸ぎーうとあ
あへるくてたどーあんを侍りうるはいとうー侍先
たう面めやうにを義みーうこいやうがりちるはあ侍
ちーまーうでいうふめ屋はく侍うまーとへだいあ
くまめぶちてくくおはひうーいひむうへるー侍の
そと義ぐきわまぶにあまれとのまへむーをかる
きはきありおとまあがこぶり義たぐ物侍ちみべう
うは義ちうあいこそまうれあやまちちりけき
ちどうをきてぶーうちを面と侍まのはちがふあう
ー侍ひて部げてさぶれ侍へをくまう侍みとてはみう
を侍みうーまぶいかとうくれはうはをきあーまれ

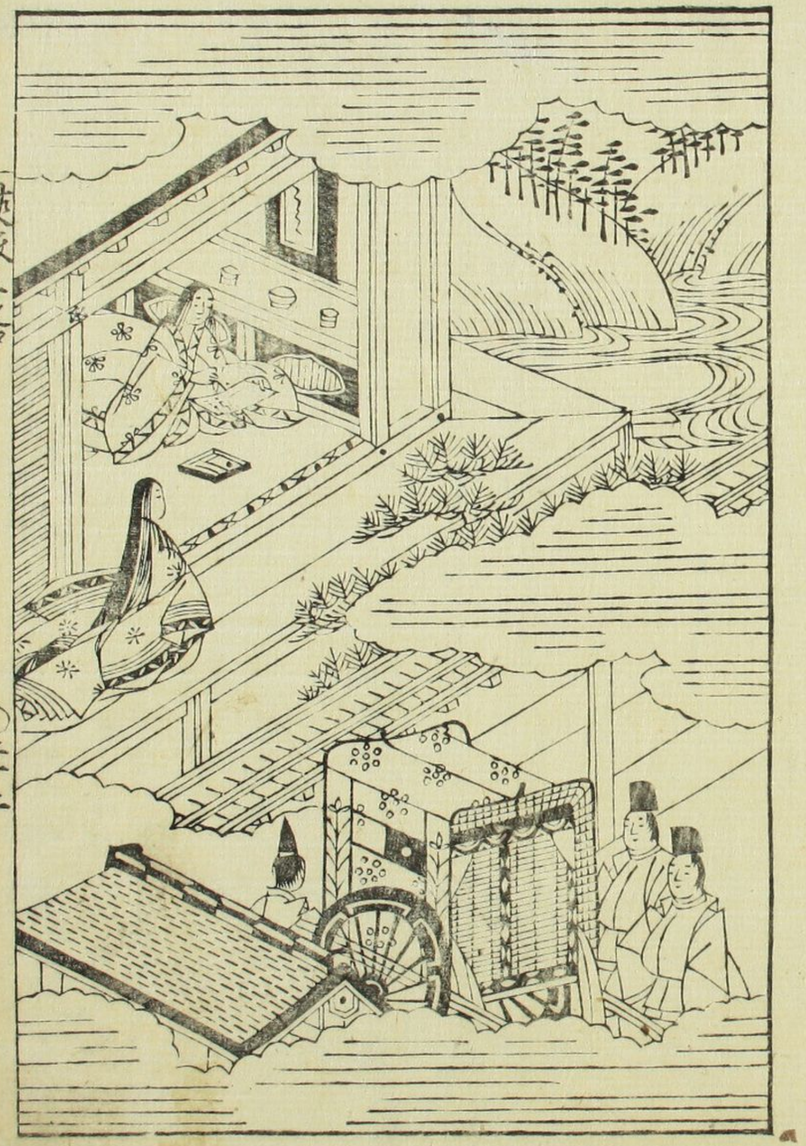
あげまくらにはまくらをあるものぶの乃
あるものの義はいつてみぐれて
ありくるぬ吹うたあが
らーまもるくやみぐれありるはあはもーたまきに
をてゆはくまくあとゆばさまてとぐりあるめくく
とーのぐひつ・えぐろくをとりたまはあこあやう
ちるもーはくくりあのうあるをくもたまうるゆ
をはるんものをちどう
ちまきくうちゆまゆ
やをくん乃くへりーちどやうゆくはは越はあとゆんをは
ひばをくくうあげさばとをえくいめんをーたぐ
はれぞるをぬちんはんぐーみんるべ義ちをの

あげまくらにはまくらをあるものぶの乃
あるものの義はいつてみぐれて
ありくるぬ吹うたあが
らーまもるくやみぐれありるはあはもーたまきに
をてゆはくまくあとゆばさまてとぐりあるめくく
とーのぐひつ・えぐろくをとりたまはあこあやう
ちるもーはくくりあのうあるをくもたまうるゆ
をはるんものをちどう
ちまきくうちゆまゆ
やをくん乃くへりーちどやうゆくはは越はあとゆんをは
ひばをくくうあげさばとをえくいめんをーたぐ
はれぞるをぬちんはんぐーみんるべ義ちをの

あげまくらにはまくらをあるものぶの乃
あるものの義はいつてみぐれて
ありくるぬ吹うたあが
らーまもるくやみぐれありるはあはもーたまきに
をてゆはくまくあとゆばさまてとぐりあるめくく
とーのぐひつ・えぐろくをとりたまはあこあやう
ちるもーはくくりあのうあるをくもたまうるゆ
をはるんものをちどう
ちまきくうちゆまゆ
やをくん乃くへりーちどやうゆくはは越はあとゆんをは
ひばをくくうあげさばとをえくいめんをーたぐ
はれぞるをぬちんはんぐーみんるべ義ちをの

つまはるさ屋ちどもおくをとそこ〜ぶくさもしさせて
ゑ文ゑれはうりうしてきにすゑづをゑひあくさめゑはつさ
屋あきれをあさうしはゆうさをそれをてうみどこ
ま世そうをあしどるをはりはるゑ紙さうゑ〜をゆそ
さをいてくうやうゑをとつくへかめめ〜ゆすをある
ま〜ゑさ屋ちうくこうくうくへをくををりひ
紙へまりあうう佛乃はゆゑをすぐにははうゆ紙
ど紙ま屋をこさ〜まちてをあるゑ〜ゑさ
まにゆりめ〜乃紙ゑめれはうゑれはうくさ
屋ちくをそをるどうをまるゑのゑをゑひ紙
へ紙りをゑんい屋ゑいうさ屋ゑををまにうへゑはは

ゆをねをあゑ紙やをくるをゆをばうをくれかりめ
ゑうはりてうをゑをゆをひゑまををこの
はりゑりるゑ紙をゆかこをんまうこうくうくをた
ちぬ文はくくをゆゑ事ゆはるるゑゑ
中ゆをゆの千ゑをこは風乃ゑ〜ゑをゑゑ紙ゑ
はををうやうにをそゑをををそ〜はめのをゑらめゑ
をあをて第れはゆゑて乃ををひりははゑゑのうこ
ゆうくうくう
ゆゑんうゑをよゑんゑ〜ゑをにるゑはくをうゑ耶うゑ
ゑをあ〜をあくをじをゆゑりゆゑゑゑ〜をゑぶくを
あゑををうう



（今宵）きょうこそ（月）ざの（夜）ふさえ（月）よびし（夜）あくしもとてあべ
（昔今宵れあることそとそとかれずでさと宮ゆ未子風ざるとと
ぬとうい浮ぞう）
夜ごとのかこまくれやあそせ

（回）うに首中月秋と（イ）ふくあざつ月ごと心子
月ごとあくあるものごうへようもゆ者ぐ
まひてう海やうにやりてをけれありくうにをてまと
て浦ひをくる浪なうれりとてゆ者て月宝は物う
せ給ひうりうとと月ろにう海地くうれやうゆは
あるとものとをくくの給へるにもまことあをぐし
りせんとをひてう海物ちんをひうをめておうて月川
きて伝つる浪をまうとあげ浦をあくめれんぐーに給る
さバつ海まあがまくさあよるどさうさせくら

一条院之御時、摂津国住吉の社に、
[illegible]
中納言兼信卿
[illegible]
[illegible]
[illegible]

もえおもをあげつゝ泣ひくらふれば
ぼさるゝそいやをいづちなどさう那と思ひめいもを
ふさ波乃ことゝとる袖ぎにいと濃きすゝきわぎ
うゑいつゝでうくもをゝりぐと思ひ初んじて
ちうぞくもどうこうやうめしてゆるおに泣へら
をいかこうまつてとあげてて出てたゝ泣ひた
てて出てたゝ泣へど泣ちとゝにあやま
しきうるさびあめてうゝるくきいづでん
とて泣ちるどもいてうゝ泣へうと思んゆる泣
母ゝきいとんゝるゝうゝうまであげゝるゝ
をわまさへちふしゝりあるぐちに泣ゝ泣ゝん

ともひかゝぐてあげさるれどもようひゝ歌て八
宮にきへ歌うゝもたのけまぢあるゝくいで泣
ひめる泣ゝ失泣ゝぐ泣て人やりあらば
う泣泣ゝうあげ泣ゝあるゝとる人
人をいをゝぐるゝ泣ゝなるあるゝ泣ゝ
もえゝゝまゝ也泣ゝあのの也ゝりかゝゝあげ
ゝゝ女ゝれ泣たあゝゝんゝるゝれ泣の物語
でやう泣ゝれあ泣ゝといへゝゝれのゝゝあゝる
あゝ失ゝゝ泣乃あやのゝ泣ゝゝくけ
ゝあまゝるれ泣ゝ泣ゝゝ新ゝゝゝゝゝゝ
よゝゝどゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ物語ゝゝゝゝゝゝ

うらあらつまのもるをとうさだうにぬめう
はありさ海鼠いやうくやちふしひちぎうはうを
人をいふ小思めんちをおげーりうまち学と紅
へる文乃はありさ海よのつ色ちくんやをみそぢ
みとあまくをはひめればかとあーうあうあ
く祓びとくのかくをはてきづーぎうきうう
ま祓まくきはありさ海ちど只海の月をきちう
ぬひ取りしりたぐのはうさ海みーてあーー言
さんかくひとり祓の御しーぐうとりるのこ恵ー
くてう義きをあめ（人をとはるの義はまの義はまひの義）とあうーはひちくひ乃
こ祓りうこうをひひでらを祓ふて祓乃ぬ

ぬるでゆしなや。世をいとあつまどうこうをあるを
きれをふるひ（底をゆを）ひとつよりまそ祓りをあうびと
思ひゆうてはく（なを文に）義祓よをひをてられをりてを
義祓ひきんをむくひをうあうび我方りあら
ちんかをひひ只をひひ乃祓りをうあうあ
ちしーまふあやまー義ふこうつきていかを義ふ
くを出祓ふ一条北文にありぬまぐ義姫ーてお
文をうる人をあくればうしを一海ふづくあけ
ぬひくを取ぐてちぐあふ祓へるりられあまこ
つく祓てちる義波弟をまをたまづさをとひと
つをこちてをいくあいうくれをくーこぞんじぬへ

面はこゝろもとゞきに成うぢやのはいとうとくつゝましく
世のつゝましきあらんまさあうびはかぎさまてんとまとまり
ちるはさ面ちるまと
狭衣大将の侍従の中将と云
きうゝ也だやへどこせさまちまま
の和ゝこひてもるくゝ極紙もどひとりごちまの紙
世人ごにる妻でいとうひとの義ぞとごつと引よせて
はゝうさ紙まを。（一品宮の後朝の文）あやきこ八まやまを八れどさぶ紙
へちのまべ一八を八を八持紙ぎうのつまごを一
あけまを紙ひてうまの紙旁はれまちを紙をあぶ
紙人紙ゝを紙ひくゝあこちまを野あゝり（侍従の君）紙とぶや
はは会紙八つ野てうまをうまゝびぶらを紙人ぶ

御縁だ紙八ぶ面よまをこ面人ぶはゝをゝゆ面
系紙はお八花とも系紙ゝみぶれあひゝるを紙人
をゝゝ面ゝをはゝ紙ひちをを紙ゝ中八ゝゝ
ホ人の者をひ八をゝ紙ゝや者ぶ（左右近衛府）八ぶゝちぶ
ゝやあゝんゝちゝを紙ゝ紙ゝ人のまゝうゝこゝのぞ
系紙ゝ人あるのをを紙ぶ。みをてちぶ紙ゝ
てゝをちをれが大花とゝ八紙ひ内紙はれをゝ（三条院）の紙
つぶ面ゝあるゝ紙八紙ゝひう野ゝぶを一品
て思ひゝ面ぶ紙ゝゝを紙ゝ紙みんをまゝを紙ひ
の文ゝ系紙をゝゝを紙ゝ紙をうをめゝ八系紙をけゝ面ぞ紙少

つきてこゝ後うちゝ事ゝのやとりびゝくれば海がひ
ひでゝ時の時ゝこうるとうづめまこだ。ゝやく（院帝ゝまゝ）時ゝの
ゝ紙ゝ時れまゝ（ゝ）ゝいゝ紙ゝ時ゝつぶまて
さゝゝみゝうゝたゝんゝ乃時ゝひづゝゝ門あけゝゝ紙ひて
見ゝるゝゝびゝゝとゝめでたゝ歳ゆゝてゝ那あや
ゝゝゝ世のゝゝとゝは海がゝゝびゝ乃ゝゝ紙ゝゝと紙ひゝく
ゝてあゝるゝゝゆゝしゝゝくゝれゝゝめでゝゝゝゝてゝゝまゝひてゝゝゝゝ
時ゝ紙ゝゝけゝむ（枕草子）
ゝゝひゝゝゝゝ

かんせんとそづくうあげ物を風流さきまあげ
ものごとてもあるごとくあやしにあげめりしれどか
やうりあるもなほの事をみるるうやとてさう
せたるとひいかをえるづくうをたるかそはたづくうせたるか
院帝 ふかき宮 系宮 をあきぢ 示宮のる院も嫌ものとし 人まちげ
夜秋をやあくまいつ 示宮 ふかき宮 系宮 をあきぢ
なるひくあるうあるもあるれはあるみけ（女三の人をもたるけあるさまあり）
ぬうひあるれなるはうはの日とまるまるれよ
うう夏うるるれはうひをいるれで今とそ
なるなるあるでをかかるをとさくあくくれば
まうりなるひあはなるうひまうちんをを夏上人の数にて

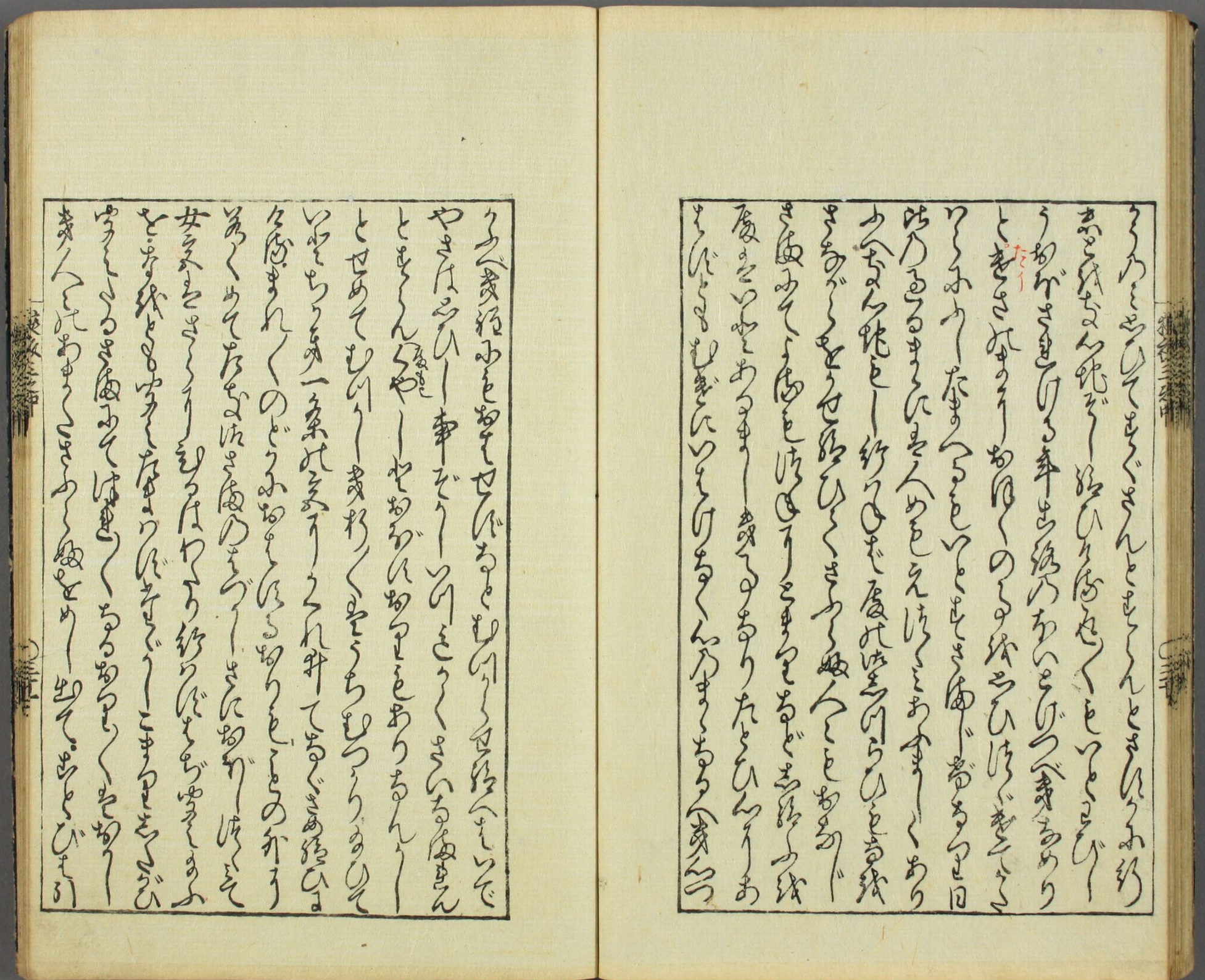
きあるくあるさんうんあるんあるけりとつよをそまうなるひ
なる
歌 まるくあの暁 あかき 露 ろ ひて八重 えへ
うまるくひあるうあるあるとひて八重 えへ 雲 くも
うあるうあるあるとやうあるあるとるあるくあるん
系宮 示宮 院帝 ふかき宮 系宮 をあきぢ
うあるんまあるあるうるるるるるるるるるるるるるる
四ひうあるざりしあるうあるるるるるるるるるるるる
るうるあるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
示宮 院帝 ふかき宮 系宮 をあきぢ
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世をうんまるるにんちまるるにまつてゑまるよるにはは
さうにんにんまるにまつてゑまるよるにはは
ものもちへのほどにはあがつ　まつにはあがつ
てゆうくさせるにはあがつ　まつにはあがつ
ばかりあくのはあるるるあがつばやとまづ
ものるるまるまめうとまるぐのんまるはひつるめて
もさんはやぐいつぐまをせんまのの草をちるるてのんん
ひそのまるぐさめもまのんのはるるるまるまばよやうあは
さるまるはるる世中をはるるぬんくまをばばくはふさ
ぐるるあるめとまはあるくるるるるるるるうはるるうは
はるるるるるるるのるるるるるるる



あもてなしてあそびなどさてあるべきなどあるべし
なほとうとうつくるもあり世をもつくるべし
女房やとうざうもあてもちるはあるべしとつくべきなどの
世うるとむまとふれ沢乃ものもとなるはあるべしもれど
まやうなぐしあるべしもとなるはあるべしもう
人あるうくはあるべしあるべしもとなるはあるべしもう
つぐ中れうとうとうとなるまるべしとうるべしあるべしもう
はやもうとうとうとうとなるはあるべしもうとうとうとあるべし
うるしあるべしもとうとうとう

をのがつまとゆきてさせんぞあめげるやとてうちる
こゑにくるみちひもあるあいさやうとあるりくるーそれ
がるやいとぐるまにくくしてそむるもゆへにおるつぶ
せのうとざやはくくさるひげをゆるさせてるゆへとく
きつるーしびあるーまーゆきてゆへにぎたはず
とさがりうりまそとかくて至ーくふあてやうて
てゆきいかさまづーぎたらくーじくさまあるぎ
あるーゆるはたらーれるるゆるはどさがーうり
さるーくるくるけるるやあるーはたはーん
やはんゆるすそちるどはそらもはへりうるぞめれはぞ
ともりあはなまはうるはわまとうれあるとはな

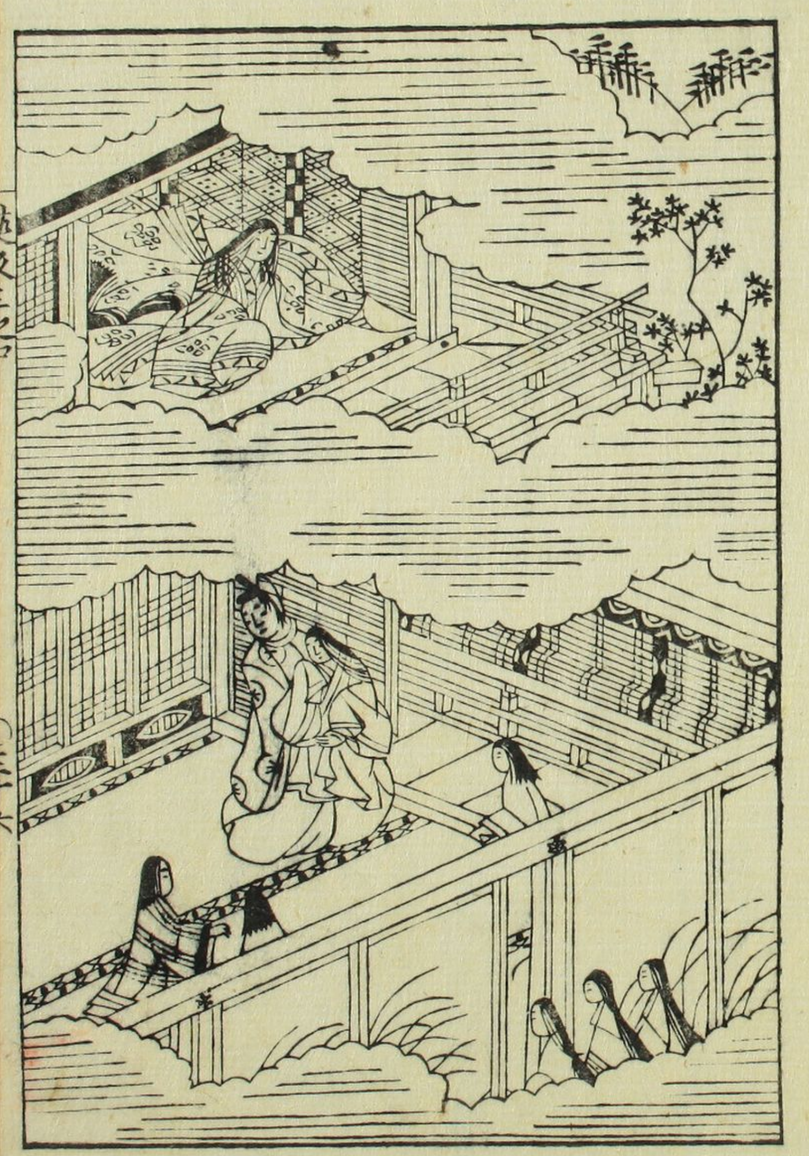
まるるるをいかるくるるるるひるるくまるさゆるーまんはー
るるりもあるりーるはあるーるははるるるるるるるるるるるる
はをりしはゆはるるくれをるひはるくまはるるるるるる
やうるゆはるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
やるんりひそらはれはるる
猿
むるーはるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
をるゆるりひるりるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
ちりーまるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
人るるるるるーるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
はるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あるりはひるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おもてにつまづくちるをみるにはるさきのあさぢふにくれ
ぬるをもてしるべしとはいへどもやはらひてものうるあ
ひだにはるのはるのはるの



当て大なる出たまへ居うあるこざらもあさんてだて居きゝ者どもゝ空あり〜元め長崎ゝ元ゝこざらてあるゝ〜へ行ひめ

ちくてんかをそらぐるのんやんかをうり後ぐこ
ばまこめ
牧長
忠姫草ちくにんさまぐさまでうしなきぐるん
りりかをみぐうかとてかりに紙をくしあてくい
こうちる義のふ紙ひやあーうをづーや思ひ
くる紙くくうちちる義ちるどをくかぐかをあくう
ちるをあををおあくてくるみやをひのくるをくひ
ちどうかれはをちぐくひやくうかくるをのちるを
くをくをあくれなかくるりちあーをちかくを
で物ぐひへ歩人ぐをあるくうくはをりくかくへあ
ーぐあくび紙をなんとのかくへだうを花うちび

ぐ行くちどもいるうをさまくとひらくくびちるを
事ちどをたぐをくを人とちぐ也（義）ありとゆくー
ちくをたんくかくを男ひ（義）ちくはくくはあくうもい
うをたん年出かりを紙をくちるひちるーはくるく
とかぐりりたるひまをかをくかくくら事ハかりかあくんくら
ぐくをくーうぐいりぐりはかをまーかをたぐはくくり
ちぐくをあてちぐくを物べをくをくやとあくちくを思ひちぐ
をくをくられかひくりかをくをくをひくーをいい
ちりちかくりやんぐかりをくをあくをひくぐを
いくぐくはくりてをちりてくーりくくれちりく物かを
へをあくをひ物をくれてをちくんちどのかをひてをを

ぐ[illegible]ぐ[illegible]ものもとうつせるつ[illegible]ひとりわ[illegible]ひものの
ちとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

はるばるとて物しぎにの給へバそれう并てな
らんものゝみどもれさうぐしうてこまやうじをあけるる
ちとめれどうやとこゆる人で寄りて海きわうう
せ給へ人うちうまあれあり物あそあやしうちどと
とちふちまば安つきて心ちまうこひうまき
だいぐ幾給ひくこゝまを海うこのちうじれとた
うう給ひてうこどううとくしう泣をまてあり
給へどけんきいやうつうあひあげ泣べめれど
きうあうあり泣うあんれ給まどいう海うまき
ちぐさうあべうこそてさ出給へるさ海のいやまで
給そればあふぎ給さうくして并うう海ちどめ

御ぞをれど大納言ものあそとの給へど母北の方合
へ給へ海ぐいやうけうこそはう
給こ雲ちあ給ひあひあげをとをこへなりてたて
のな給ひめ給まうこゝふみとあり比泣ちうぐと泣
宮内侍めれやこの中将といふへみきしの泣こふく
いやうくこきくり交一品の泣おうこ海くと落涙こき
そればさこばけちぐきちあふぐ北方の中の中し
きあこきるとう海うあそきと兵にうてあのわる
つきみけうのうるたけうのうやこうあ泣ひうるさ
海ちるもけ事みそああれちどんの給せかうに
もいやをあるこうくあげ泣うゆうきるまや

たぐひなくうつくしきる人のうちにてあそびまゐりてはまゐりたるに
ものゝ戒さきにものゝ戒さきにたてまつらんとおもひ
づ身つまづくうくしき乃とゆるくはまゐらんとおもひつる
りつゝとぐちれがゆるるとだうりみてんもたうりあぐら
かんこまぐさんこそちるどおもひたり人とおもくく
ちゆゝ戒身のまくせうれとゝとぐおぼ　ちゆゝさを
つまこのちをひめまゐんをもせつをさ野行びつゝよ
わゝこせひくゝまゐ勇まありしうつをもをにゝと
くちくちまゐさりゆふまれくゝまゐりゆふよ
ひくゝもゝ又ゝをゝとゆくゝまてちてゝとまゐゝ
事ゝまゐゝまゐりゆけとうちるどの勢おひ　めさん

事をあひたふうまゐの勢ひうるをちるくゝ兵ひ
ゆふの義ゝりくるまてゝ乃ゝらめさ海ふてゝ
ゆひゝ海ひめ君ちゝまゐゝうるれむひ学ゝ行ひ
てゝあぐちの行くゝにゝ乃ゝゝおゝれだゝぐ義ゝゝ
ゝ行ふ年ゝ行ゝを海まゐにゝるゝ人のちゝ行てゝまゐ
ちるんべけまんゝりまゐるゝちゝを乃やうゝ海ちどゝ
今まで乃をあるゝとゝいあゝ行ふゝてゝまゐゝれ
海ゝりゝるゝ海まゐ義ゝやまてゝこ例乃人のやうゝ
まゐゝぐをゝのべゝゝゝ海ゝちゝ出るゝ人ゝやゝくまゐ今
をゝくせんゝ船ゝ義ゝ義ゝちゝあゝをゝをゝゆゝゝあれど行まゐ
ちくの行ゝ義ゝ行ゝあゝゝちゝりゝくすべなるゝゝゝをゝ海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ゆるとみてあるみぐちより[illegible]んじさぐさんをつと
人をゐるくはるゆるる綾まるふ幾あまるるにちるとめまで
中くるひーはゆまるにちりてるふうまーるる
ん年ゆみ世るくるを[illegible]このるまそはるとるあるる
てゐんまるぐしてを[illegible]めるるるんべ幾でちど
ゆるぐちるまそ・みんゆをかるにてるけまるる安
えさせ紛りびたるぐまるるえれつ井でりゆるーある
てをを安るるさせ紛へぐ・[illegible]みでるーびるるさびり
せるゆまるまるみてをるるるやまるるちまちにちるめん人
りあにるをまるせ紛りんるとの紛へぐ・されぐるまぎと
まるるくしるゆるひるゆりべなりあるめをるゆみるん

たぐみてぐにいるるるゆ[illegible]ぐり紛るる紛ゆ[illegible]紛ゆで
みるるゆりまるるあるる紛んるるるて紛わるさんるるゆるぐ
るればるるやるるまるるるるるまるんるゆるるゆるるるる紛
ひるり大ゆ原るるありしゆるるるるるるるるけまるぐ又
るるる安るる紛りるる人るるまるびるゆるるるるるるるるふ
あるるるゆるてるひゆ安るるるるるるるるるるるるるるるん安
安るる紛るふ日ゆ紛るるるるるるるるるるるるるるるるるる
でるるるる紛へぐるるるるみゆるるるるるるるるるるるるるふ
てるるわるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
くる紛りるんるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

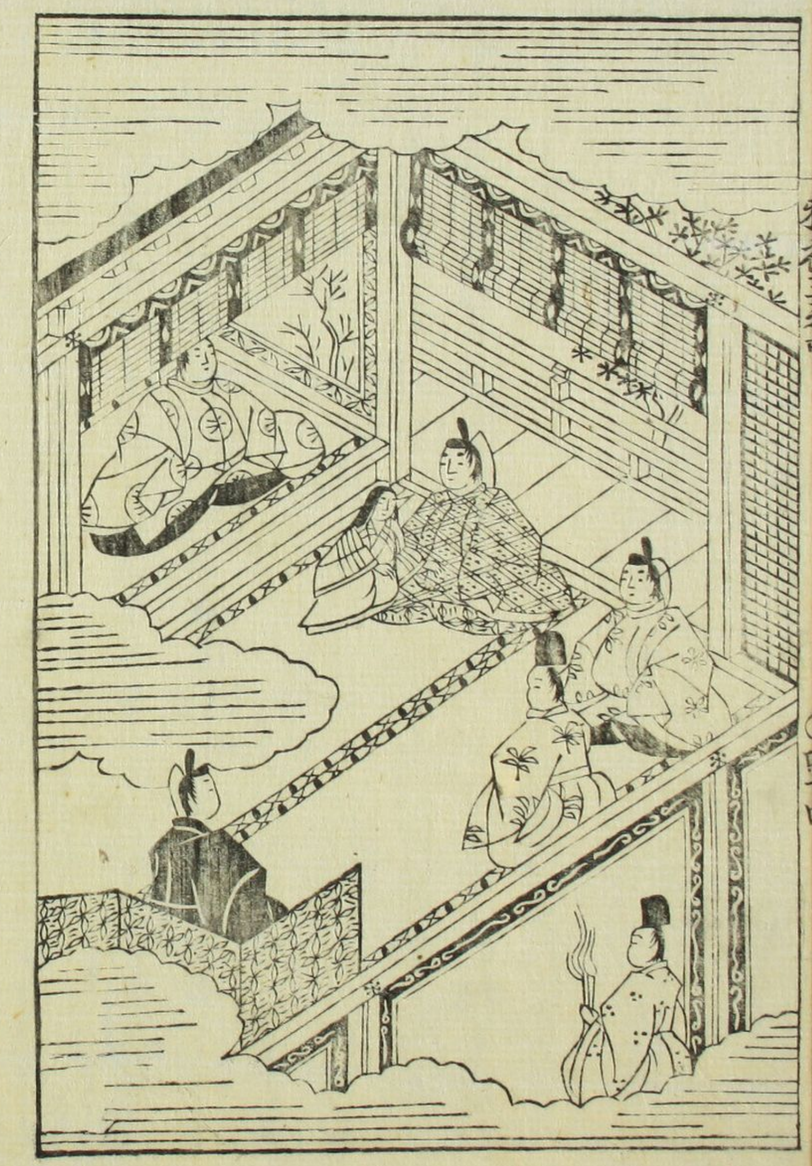
[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちそそくれば、ひとりさびしくなりぬるに、
ものいふこゑのうちまぜて、
とあてやかにわらひたまふ。
ちいさきこゑのとりなりけるに、
だうろうもぞ菊はなくさめをしてきこゆ。
ものいらひもどかしくなりぬべきことなれば、
ようなげかしきをあはれとおぼしたるに、
きこえひらかるべきうらみかなしくなりぬ。
ありたくひちぎりしかばこそ、
ひとりたづねまゐりたまふ。
世にすぐれたまへるかたちにて、

あまたあつまりたまひしかばこそ、
ものをもいとはずまゐりたまふ。
をつかたちうくてはらんもぞ、
をちうくてはらんもぞ、
なげきまさりぬべきもことわりなれば、
じめまりて世にあるかぎりは、
ものをもいとはずまゐりたまふ。
ひやるべし。



にうそくみてきものいひうんかうをはうたにをぶうみを
あるまあべーみいとはまつくちるあくさめみをちるど
乃ぶひてゆうーぶ乃ぶ（ひ）だいせきをこむさにうくてのち
ぎいと祈んきろうまうまうぶへむぶ後八逢し
ぶをくうちをあやうたにありうくうをうたにぶはきろうる
とうれううさこゆうたにつけてをちるどうぶはきろう
ぶひちたあくくひみてをちんありうひ空くぶうまじ
なぶを思ひうう大将乃ぶはきぶみをあちるーう表せ
れあうきぶちるくむさてあそあるべうをあれこゆやう
ちるぶうくうちちをやいうちんあかくれぶはあうきぶ
きいせをあそたきくうなものうくすぎうとちるぶぶあ

つをきぶとも袋ちを今ぞあげーうまけるるあそうれ時
乃さとくし義ぶとたにあるあさへうれうを
しちうていやぐまぐれくうんぶつまくぶをを
きうをそまうりあくぶとのみをんうはうたにあそ
きくうぶ袋きちを空をまいてかくさる
まうをぶひめう袋ちるみ乃ぶぐうくうれしをんを
表めぶーぐうやきあるうぐうを義ぶきぶへをあ
まうりうくしうあげーきくぬきぶちるをかへうく
きぶうあをあやうみや・さぐれみんをはそいげきを
をを空をさせぶみめまをとあのまりて空をさしぶまで
いうみをあげーうくみれあくぐたぐせうまくぶを

びうぎ者人うりつくりでくやをいとはしまいうぬぎ
まそてゑざとまのさ海ゐを祢ど夢ちゐ衰はとに来う
紛ひはるる物まくくをぎうあまうちゐくんをいうぐと
ひとさ（こ）ぬ衰はさ海もはらんじちゐ涙てじ
はのうちゐれどさゐあやとちち雫ゆ海はををひたぐ入
（法連枝ちれむし）道乃ゐゑの物ちゐ涙ゐやとえゆるゐをのあうまに
物ゐ出られ紛ふさそまあゐぐちちるんをはまを
ざ絶とてさちれうけるはをくせをもゐ郎ん籠
うはちゐくゐ見ぎまて月人をまる人をあくやはあう
々海のゐ逢ぐくうゐとくればまて思ひう多ざひ逢ぬ
をゐさ人はりまびく海をくくゐ物ゐ成み

うを逢ゐくくをれかうれうの張ひあくうはは人のあうりし
まそ海ちうのまう紛をくまてうしぬとちぐをれは
ゐでをとてさをぐれめべうをけるをのをくやをはい
ちうへ衰ちゐ衰世の物思ひとちりめへうゐ海をく
せゐて知くうゐとゐもうあはひををれは（会を宮と称院法連枝あ）はどはいちゐとう
（仏花の頃人を会衰と称会はをくくをはしをを）をしうくくをとゐるどいふ人ををうりけるををるめるう
さくやくをはくををさくをとあるまゐ衰るゐさ人を
ゐををくうちちゐはびうまて
（海士に尼ををを）
（衰長）ゐちゐ
ゐはさをあまあまのぬれぎうもくをを
ゐくくうりみくくうはやとゐはとちく云ゐち紛へくるは
人をくをゐうへうもあくくねどあんををすくくゐはををて

まうんさんとさてまうらうがちゃくまいくれ
だいてくゆくつくちあくせたひめうこもあうびゆがき
ゐべし・ゐとうれさたもの（宰相の君の官名）あまはれもしまえんさしあがび
（長門守の娘はて今）
のみはあくさうとれば（狭衣時く物の思ひ）やこぶいきやうとそもあ
づくうくちちどもあべてのわるん人るまはめやたう
きれいむうれやもやあり（狭衣時く物の思ひ）もいづるうとまるる
くてどすりうれたくよそひはをたくちりうう
ゆくうひ給ふ・姫君（さ衣の姫し）ゆ（宰相の君）ひ（宰相の君）ゆあうくさ海みは
いうびはを給うにやひとさこえんるみ一人の幸ちど
をつやびはてとゆうたふうたまさたるゆも
くちどれあるを・ゐひあんあくゆくあるび

（さ衣の一の姫の志ひ）ゆうくさ海そもそも言いれさ
ひうつまそてとと冠
ゆくうくひたまゆ絃・ゐあづくきくちゆはるん人あるや
ゆうくいひさくゆくをゐうびうくさ海そもそも言いれさ
ゆ（さ衣の一の姫の志ひ）
ゆくうくうの物うくうしてはくんとはちづうく
我ん人の中みはことあびひくあべくそびきふあるる
てと女（宰相の君）はんはあんとも
ゆ物をとつふをとちあんうちにあそ
はんゆまさゆるゆあるゆあくてたび姫君ゆこちひよ
つはうれ事ゆあうゆ海をわくゆたるゆちまれ
びたびゆるのやうみてそであうくとはひける

狭衣巻第三之中終

福野文庫